

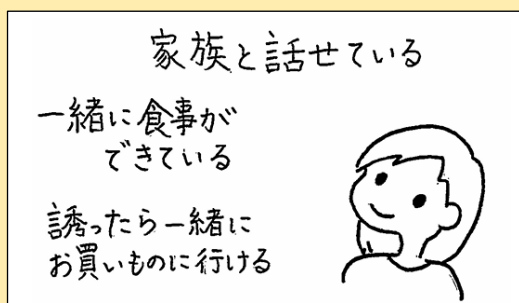
子どもの“今できていること”を探してみませんか？

2学期も約2ヶ月が過ぎ、子どもたちはどのような姿を見せていますか？もしかしたら、学校生活を送ることが難しくなった子どもたちもいるかもしれません。教師や保護者は、子どもの将来を心配するからこそ焦りや不安を感じてしまいますよね。欠席する日々を「心のエネルギーを溜める時間」と表現することがありますが、その間、何を大切にしておかかわるとよいのでしょうか。異なる2つのストーリーを基にして考えてみましょう。



① 今できていることに目を向けたストーリー

生活の中でできている小さなことも「価値ある姿」と捉え、大切に続けた。

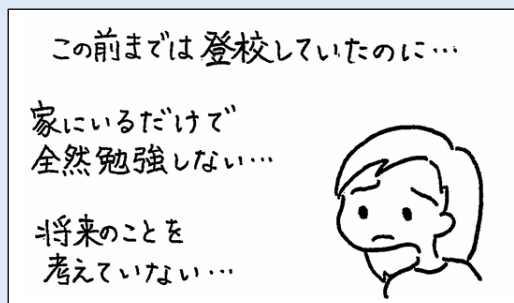


子どもをあたたかい目で見ることができ、子どもも安心感を得ることができた。



② できないことばかりに目を向けたストーリー

「以前はできていたのに…」「これからどうするのか…」という焦りや不安から、マイナス面ばかり気になった。



問題を指摘するようなかかわりが増え、子どもは自分を否定される辛さだけが募った。



これらのストーリーは、その後どのように展開すると思いますか？

長期的に見たとき、私たちは①のかかわりが大切だと考えています。遠回りだけど必要なこと。子ども自身がエネルギーを取り戻し「よし!」と一歩踏み出す日に向けて、子どもの心を大切にしたいものです。

教育相談日記～ある日のひとコマ～

我が子が不登校になり、不安が募っていた保護者さん。教育相談を通して、今できていることに目を向け続けたことで、本人も保護者も心の安定につながっていきました。高校生になった今、自分に合う環境が見つかり生き生きと生活している我が子を見て、「この子のよいところを見ることができたから今があります。あの頃、もし否定的な見方しかできていなかったら…」と、感慨深く話してくださいました。

